



TITLE:

十月の天象

AUTHOR(S):

CITATION:

十月の天象. 天界 1930, 10(114): 365-367

ISSUE DATE:

1930-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161570>

RIGHT:

十月の天象

太 陽

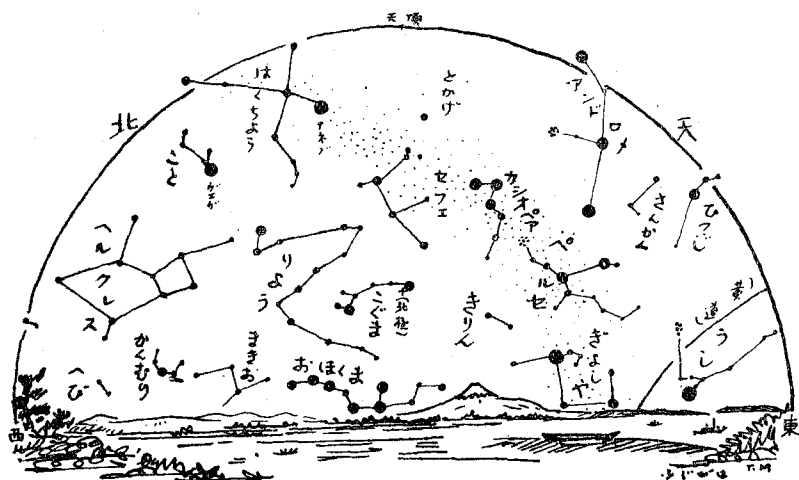
日	赤 経	赤 緯	視直径	星 座
1	12時27分50秒	南 3度 0分	32分 0秒	を と め
11	13時 4分18秒	6度51分	32分 6秒	を と め
21	13時41分34秒	10度32分	32分11秒	を と め
31	14時19分56秒	13度58分	32分17秒	て ん び ん

月始めは天秤宮にあるも、23日に天蝎宮へ侵入する。22日早、日食があるが、吾國からは全然見えす。オーストラリアの中部以東より、南太平洋を横斷して南米の最南部までから見られる。皆既日食である。

月

月の相	時 刻	視 直 径	星 座
満 月	8日午前 3時55分36秒	29分59秒	う を
下 弦	15日午後 2時11分54秒	31分59秒	ふ た ご
新 月	22日午前 6時47分36秒	32分21秒	を と め
上 弦	29日午後 6時22分 6秒	29分39秒	や ぎ
遠地點通過	3日午後 5時54分	29分29秒	や ぎ
近地點通過	19日午後 4時42分	32分47秒	し し
遠地點通過	31日午前11時18分	29分32秒	や ぎ

今月の遊星歴訪は、先づ最初に、8日午前3日に天王星に追ひ付いて、掩蔽を起すのが始まりである。日本から勿論見る事が出来るのであるが、何分月光が強いので、先月同様、大口型望遠鏡を必要として、みすみす一般人士は此の景色を見る事が出来ない。幸ひ此の時月蝕は起るが蝕分が、少なくて、月光を弱めるに至らない。15日午前10時に木星を追ひ越し、同日夜半に火星と出合ひ、18日午後2時に海王星に追ひ付いて、21日午前11時には水星と合つて、その南側1度を通り、24日夜半に金星に追ひ付いて、北側2度を通り、最後に27午前10時に土星に追ひ付いて、その南側6度を通過して、今月の遊星歴訪を終る。



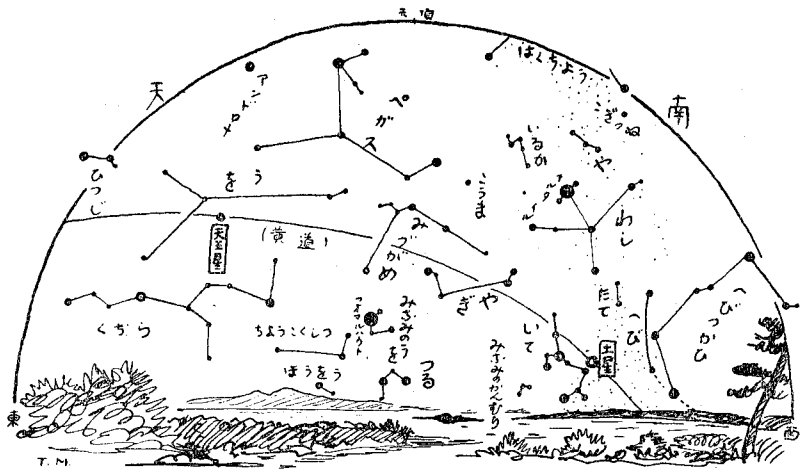
恒星界

桔梗、刈茅、女郎花等の七草が咲き揃つて、吹く風も肌に心地よく、紅に染つた夕映の空が、次第に紫紺の色と代つて、足もとに鳴く虫の音も、秋のあはれを物語る頃、空では「へびつかひ」や「ヘルクレス」が西に低く牽牛星や織女星も稍西に傾いて、天上もすつかり、秋景色となつて了つた。

北斗七星は北の地平線に低く、「こぐま」の東には「カシオペヤ」、「ペルセ」、「きりん」などが並び、東の地平線には既に、プレヤデス、ヒヤデス等が人目を惹ひてゐる。其のお隣には「くぢら」があり、その驚きの星「ミラ」は、一年近くの週期で變光をなして、昔人を驚かした。南の地平線には「みなみうを」のホマルホウトが君臨し、其の附近には、「つる」、「やぎ」、「いて」等が位置してゐる。

天頂を圍んで、「ペガス」、「アンドロメ」、「はくちよう」等が位し、暫らくすれば、東に「し」、「ぎよしや」等が登つて来る。

「ペルセ」の二重星團や、「し」のプレヤデス、さては「アンドロメ」の大星霧等美しい天體が、吾人の鑑賞するのを待つてゐる。



遊 星 界

水 星 暁の星であり、7日に西方極大離角18度となる。其時の光度正1等、視直徑7秒、位置は「を」とめ座β星に近い。以後次第に太陽に近づき、観望不能となる。

金 星 宵の明星。18日には最大光輝負4.3等に達して西空に輝やく。月始め「てんべん」の中央にあり、徐々に順行して月末「さそり」の西部に到るが、次第に太陽に近付いて行く、視直徑は月始めに31秒、月末に48秒。

火 星 月始めに「ふたご」座中央より稍東から順行して、月末「かに」の中央に達す。夜半前の出現で、光度1等、視直徑はぐんぐん増加して、月始めに7秒月末には8秒となる。

木 星 午後11時に東天に登る。「かに」座の中央から順行して同座東部に到る光度も徐々に増大し負2等に近く、視直徑もますます大きくなつて、38秒にまでなる。今後は次第に観望に都合がよくなる。

土 星 宵の西空「いて」座にあり。視直徑14秒、光度正半等級。

天王星 宵に東天に登る、7日に太陽と衝の後、8日には月に掩蔽される。位置は「う」座の中央、視直徑4秒足らず。光度6等。

海王星 暁の星。午前2時頃東天に登る。「しし」座レグルスに近い。光度8等。

超海王星プルート いよいよ又好い観測期に入つた。世界の天文臺は多忙を極める、位置は双子座デ星の東3°半。

エロス 永く待つた此の星も愈々駈座に10等星として出現。